

『紡ぐ』

2022.3.1 第37号

発行 教育相談室「あした塾」



~~おちばいなく春です!!~~

2月6日も大変な雪でしたが、それくらいは降らせませんでした。
そして2月15日、カエルが鳴き出しました。裏の池のいつもの場所
にカエルの卵が…。春ですね。

能登半島地震から15年です

3月25日(金)に15年メモリアルイベントが 개최



3月25日は能登半島地震が発災してから15年の節目です。時間が経つ中、風景が変わり、記憶もうろていき、その意味が大事な体験・経験がどんどん風化していきます。被災者にとっては、忘れられないことは絶えたいことです。また、いつもの経験や教訓は次代に生かさんければいけません。穴水町社会福祉協議会(ボランティア連絡協議会)では、町とも連携しながら



3月25日に「能登半島地震15年メモリアルイベント」(別場)を行います。ぜひご参加下さい。
能登半島地震発災時、支援に駆けつけてくれたレスキュー・ストックヤードの栗田暢之さん、浦野凌さんが来てくれます。

イベント要項

日時 3月25日(金)

午前9:30~11:30

会場 穴水町役場3階ホール

内 容 ① 栗田暢之氏講演



「珠洲・能登群衆地震とその備え」
北沢福のボラビ運営
栗田さん ② スムコンサート
(権岩幸哉さん等)

③ 交流会その他

問合せは社会福祉協議会まで

3月議会

吉村光輝新町長体制に
対して初めての議会が以下の
日程で行われます。
いずれも傍聴できます。

3月7日(月) 10:00 開会

10日(木) 13:30~

一般質問

15日(火)~18日(金)

各委員会

22日(火) 閉会

(日が入っていないところは休会)



福井市
森康晴さんの
投稿です。

~~戦争は起こしては
いけない!~~

ロシアによるウクライナへの侵攻が問題になっているが、戦争を起すのは権力者、実権に殺し合うのが兵士、兵士はロボットではありせん。残存家族がいるのです。そして犠牲者の多くは市民国民なのです。

あなみ百物語



誕生まで

『しんぶん』『紡ぐ』では、これまで何回か『あなみ百物語』に書かれている「お話」を紹介してきました。今回、この『あなみ百物語』が誕生することになったいきさつを、甲在住で、この本の作成に大きく関わった岡本伊佐夫さんに聴きました。

岡本さんは役場の要職で歴史資料館に勤めることになったとき、多くの歴史的な資料を前にして「子どもたちに何ができるか」と考え「不思議探偵」という形で所の歴史を伝える取り組みを始めました。当時の学校の先生方や保護者、公民館関係の方々に協力を求め、地域の人たちから「話」を集め、現地調査を

している「お話」としてまとめていきます。この「お話」は『広報あなみ』で紹介されていたので、これが好評で『あなみ百物語』として本になったのです。

当時は、公式な資料が足りなかったのです。岡本さんの古い写真などを集める趣味が大きいので、それと、伝承や民謡、郷土誌などの歴史書を活用して子ども向けに「お話」を創り上げていきました。

「子どもたちに夢を与えたい。そして、子どもたちが興味を持ち、自分でも調べてみよう!!」というふうになってくれたら...という願いがありました。

『あなみ百物語』は、水国書館に数冊あるだけです。集録されている「お話」は30数編です。水町にはまだまだ多くの「お話」があります。今後は集話などを進め、「百←多くの」から文字通り「百物語」となっていけば良いと思います。

水町の歴史が埋もれてしまわないために、大人の責任を果たしていきたいと思います。



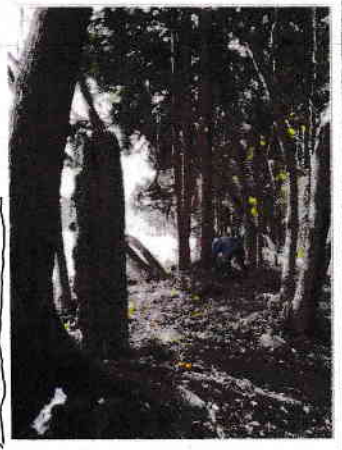
蘇る歴史

2月19日(土)、沖波地区住民ボランティアと応援ボランティア合わせて12人の皆さんが、所指定記念物・史跡を整備するための作業を行いました。現地は大変荒れかかっています。作業は困難を極め、一日ばかりかかりました。

この活動には、道本義夫前市長、次野栄治市長、そして次野久雄さんの手配があり、作業に参加した人たちの一生懸命な働きぶり、すべての場が姿を現しました。おに歴史が蘇りました。

活動に参加した人々

白 紀子	与取 護	万平秋男
田口 久幸	諸和正貴	赤長昭夫
道本義夫	次野栄治	次野久雄
滝川敏明	幸崎久史	滝井元之



「水町再発見ツアー」は3月26日(土) 28名の参加で実施されます。(町内19名、町外9名です。)